

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ

内容
<p><テーマ> 箱からイメージをふくらませよう！</p> <p><概要> 6名前後で構成されたチームごとに、箱を「何か」に見立てます。 物の形を作るのではなく、物の機能や特性を考えて、大小いろいろな箱を使って、その箱をそのものに見立てることで表現します。それをグループの中で皆で相談して進めます。最後に各グループで発表し、表現が伝わるか、また伝わらない場合は何が問題なのかを考えて、次の表現に生かします。</p> <p><趣旨> 身の回りに当たり前の様にある「箱」で、いろいろなモノが表現できるということを楽しんでもらいたいと思います。「見立てる」という行為は大変高度な行為で、単に形をまねるのではなく、想像力、表現力、洞察力などを必要とします。 同時に、言語を介さなくてもさまざまなことを伝え、受け止めることができることを実感してもらいたいと思います。 この作業はグループで、相談しながら進めます。互いに意見を出し合い、聞き、受け止めあうことを通して、他の人が独自の想像力を持っていることを知る機会ともなります。また、表現しようとするものを見つめる洞察力など、日常生活ではあまり経験しないことを体験する機会となります。 グループ内でいろいろ意見を出し合い、最終的に結論に導く過程では、コミュニケーションの必要性を学ぶこととなります。</p> <p><ワークショップの進行> 1、アイスブレイキング（心と体をほぐすための準備運動） 講師陣の自己紹介と手話の紹介をする。その後、手話表現の動きをもとにした身体ゲームをおこなう。次に生徒さんたちが自由に歩きながら、アイコンタクト&タッチ（目と目が合った者同士がタッチする）を行う。このゲームを通じて、気分をほぐしながら自分の気持ちを伝える事や、他者の表現を読み取る力を養う。</p> <p>2、デモンストレーション1 デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる実演。どんなふうに表現すればいいかを参考にしてもらおう。</p>

3、製作①

チーム（学校での班分けでも可）に分かれて作品の製作を行う。

1回目は、1個の箱を使うものを10個以上考える。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒さんたちは感想を述べる。

4、デモンストレーション2

デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる、複数の箱を使った実演。

5、製作②

複数の箱を使って何かを表現するものを複数考える。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒さんは感想や意見を述べる。

6、製作③

製作1,2を踏まえて、本公演の際に発表する作品を各チーム1つずつ決める。

7、公演前稽古

本公演日は発表前に1時限分程度、稽古する。

タイムスケジュール（標準）

例（例をもとに事前相談し、各校ごと調整を行います。）

開始の約1時間前に到着～搬入&準備

0～15分 アイスブレイキング

15～20分 デモンストレーション1

20～30分 製作1

30～45分 発表1

45～55分 休憩

55～60分 デモンストレーション2

60～75分 製作2

75～90分 発表2

90～100分 まとめ

終了後、約1時間程度公演会場下見&打ち合わせ。

公演日に1校時分程度、稽古を行う。

派遣者数

6名

学校における事前指導

事前にご指導いただくことは特にありません。

ワークショップ当日、ご家庭で用意できる箱を参加生徒さん各自 2~3 個程度ご持参ください。四角形であれば、正方形・長方形、大・小など問いません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ

演目
『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』 構成・演出：くすのき燕（人形芝居燕屋） 美術：太田拓美 音楽：田丸智也 / やなせけいこ 照明：後藤義夫 音響プラン：森下勝史（人形劇団ひとみ座） マイム指導：チカパン スライド写真：古谷均 舞台監督：やなせけいこ 演出助手：木俣かおり

派遣者数
9名（出演：6名、スタッフ：3名）

タイムスケジュール（標準）
例（例をもとに事前相談し、各校ごとに調整を行います。） 8：30 学校到着、搬入、仕込み開始 11：30～12：15 ワークショップ発表する生徒さんの稽古 12：25～13：10 昼食 13：20 開場（生徒さんの入場） 13：30～13：45 ワークショップ受講生による発表 13：45～15：05 『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』上演 終演後、生徒さんが退場された後、片付け 17：00 学校出発

実施校への協力依頼人員

演具の搬入・搬出に5名ほど協力いただけますとありがたいです。

演目解説

家族の愛情と絆の物語です。

戦前から現在まで、時代や文明に翻弄されながら生きる、ある家族の三代に亘る変動を通して、人類に多くの物をもたらす文明社会において、本当に大切なものは何かを問いかけます。

セリフはありません。劇団結成以来積み重ねてきた、人形と動きにより表現します。登場人物は人形、それ以外の小道具、セットはすべて箱を用い、物の特性や特徴をつかんで表すという独自の方法です。

演出のくすのき燕氏は、人形による様々な表現に挑み続ける気鋭の人形劇演出家。現在、国内外で活動し高い評価を得ており、注目と人気を集めています。デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーは、くすのき氏によるプロットを基に、箱を使ったワークショップや身体表現の試みを積み重ねて本作を作り上げました。

<あらすじ>

幼馴染の“スミ”に恋した“センキチ”。不器用な告白の末、2人は結ばれます。

スミの心を動かしたのは、彼が送ったオルゴールでした。しかし幸せは長くは続かず、戦争が2人を引き離します。

悲惨な戦争を生き抜いて帰ってきたセンキチはスミと結婚し、2人は家族となります。

2人には娘“ユキエ”が生まれ、新しい家には次々と電化製品がやってきます。便利なものに囲まれながら、親子3人は幸せに暮らしました。

やがてユキエは結婚し、息子“カイト”が生まれました。世の中の生活スタイルは急速に変化していきます。父親“タダシ”は仕事に追われ、ユキエはテレビ、カイトはゲームに夢中。皆で1台のテレビを囲む時代は終わりました。家族はバラバラになってしまったのでしょうか？

そんなとき、今はおばあちゃんになったスミは思い出のオルゴールを取り出し・・・

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

生徒さんの発表は本編に先立って行います。

箱が表現するということはどういうことなのか？ワークショップで制作した作品を発表してもらい、全校生徒さんに、何を表現しているか当ててもらい、クイズ形式で行います。ワークショップに参加できなかった生徒さんも、このクイズを通して箱で表現することに自然に参加することになります。

この体験が、この後に続く本編の鑑賞に大変良い効果をもたらします。生徒さんたちの中に「箱で表現する」ということが理解できていますから、自然と箱が表現する世界に入ることができます。

セリフがないこの人形劇を理解し、楽しむために、とても良い導入となります。

児童生徒とのふれあい

1. 生徒さんが退場される際には、出演者が人形を持ちお見送りします。
 2. 舞台の仕込みを見学いただくことは可能です。
 3. 終演後に以下の交流会を行うこともできます（10～15分程度）
 - ① 手話にふれてみよう！：手話言語法により手話は言語のひとつとして市民権をえていますが、実際には接したことのない生徒さんも多くいらっしゃると思います。今回はろう者の出演者を含め、皆で手話を使い交流することで、ろう者への理解や手話言語の豊かさにふれられます。
 - ② おもしろ楽器体験：公演で使用した約10種類の楽器（創作楽器を含む）の紹介。
 - ③ 質問タイム
- * 事前にご相談いただけましたら、他にもさまざまに対応可能です。